

特別寄稿・輪島のウスバシロチョウ

天野 勝広

輪島でウスバシロチョウが記録されたのは、1952年度発行の浅見氏と的場氏のものが最初であるが、記録が古いのと時期が8月というのが少々気になり、信頼性には疑問が残る。

自分が最初にウスバシロチョウを発見したのはまったくの偶然で、ウスバシロチョウを採集したので蝶の世界に入ったといってもよい。でその場所は門前との境の切割付近で、丘のような土手があり、その上が林に生えていて、ウスバシロチョウ他、かなりの種類を確認している。ウスバシロチョウに関してはこの付近、約1KMの範囲でしか確認出来ない。

次に今までの記録を示す。

1975年 6月1日	含10数頭確認、含3頭採集
1976年 5月19日	含2頭採集
〃年 5月27日	含10数頭確認、
〃年 5月28日	含5頭採集
1977年 5月22日	含2頭♀1頭採集、他10数頭確認
1978年 5月28日	含10数頭確認♀1頭確認
1979年 6月9日	1頭確認(含?)
1980年 6月5日	3頭確認(含?)
1981年 5月22日	3頭確認(含?)

以上であるが、採集したのは最初の3年間だけで、後は毎年現地に確認しに行くのみである。飛んでいるのを見るだけで、あとはネットにも入れず帰るだけである。

1976年5月19日に加賀の市原で採集したウスバシロチョウと比較してみると、輪島の方がより大型が多く、又白っぽい(鱗粉の剥離が少ない)ものが多い気がする。

三子牛にイエローバンド産す

金子 二久

ギフチョウの外翅の白毛の連続した変異体は、俗にイエローバンドと称されている。それは、長野県の白馬附近に高率に発生する事が知られている。

昨年(1980)5月に金沢市三子牛にて採卵、飼育したギフ卵より羽化した成虫の内に1頭のイエローバンドが見つかった。白馬産の個体と較べると、やや白翅の細い感じはあるが立派なイエローバンドである。

卵数、卵塊数共に記録してないが、約20卵、2卵塊程飼育した様に記憶している。同一卵塊よりさらに出現してもよいと思われるが、羽化した約15頭の内、唯1頭のみがイエローバンドであった。

鳥越城址のオオムラサキ

松田 俊郎

昨年(1980)、石川郡鳥越村の杖川上流でアイノミドリを採卵したことから、柳の下のどじょうをねらって、1981年8月25日杖川へ行ってみた。しかし道路が欠陥していて車は入れず、仕方なく引き返すことにした。

帰途、鳥越城址へ寄ってみた。以前に一度来たとき、サクラがたくさんあったのを思い出したからである。残念ながらメスアカミドリを採卵することはできなかったが、思いがけず多数のオオムラサキを見ることができた。当日は、採卵が目的であったので、ネットを掛ってこなかったことが悔やまれたが、オオムラサキは、大木の葉上に基点を置き雄々とは有飛翔をくり返していた。時間はもう午後4時を過ぎていた。

この日見たオオムラサキは、おそらく30頭を越えていたと思う。(多分、雄ばかり) 他には、スミナガシ・ゴマダラチョウなどを目撃した。また近くをチラチラ飛ぶミドリシジミ類がいて、手がかみにれたところ、ミドリシジミの雌(B型)であった。付近にハンノキがかなりあったので、ここが発生地と思われる。

《住所変更のお知らせ》

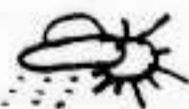
金平 永二 : 金沢市笠舞 2-2-3・野村コーポ101号室
TEL. 31-0132

諸道 秀人 : 大津市上田上堂所 380-2 (〒520-21)
TEL. 0775-49-1110

採集メモ・蛇谷のツマジロウラジャノメ

金平 永二

Aug-29, 1981 吉野谷村蛇谷



小雨が降ったり止んだりで無風。ツマジロウラに的を絞って蛇谷に沿った崖地を探索。AM 11:00 ~ PM 5:00 で合計 2388 299 という結果。

1日でも20頭を得たが、これはかなり多い方ではないだろうか。崖地をゆるやかに飛ぶが、好みの通路(蝶道?)があるらしく、1頭採取すると別の個体が全く同じ経路でやってくる。崖地周辺に咲く花には大体訪花にくるようで、少くとも5種の訪花植物をみた。また P.M 5:00 になっても飛翔、訪花する個体を自撃。▶ *ツマジロウラ ジャノメ 2388 299. *ダイミョウセセリ、ヒメキマダラセセリ、*ミヤマチャバネセセリ、キバネセセリ、*アサマイチモンジ、ホシミスジ、*コミスジ、*サカハチチョウ、オオムラサキ等。

*EPは新鮮。なおキベリタテハと思われるタテハチョウを自撃したが、確認できなかった。

1981年・雨飾山アサマシジミ

松井 正人

7月5日は晴、標高1960mの雨飾山山頂付近のアサマシジミは、イワオウギ、シロウマオウギ、タイツリオウギの3種類を倉草としていた。イワオウギの幼虫には、アリのたかっていた。標高1000m付近の大海川のアサマシジミは、ナンテンハギとエビラフジを倉草としていた。アリはどちらの幼虫にもたかっていた。

雨飾山山頂付近には、多くのイワオウギ、やや少なめのシロウマオウギ、少なめのタイツリオウギが混生していた。

イワオウギの半数は、花が咲いていて、多数株より3令、終令、共に多くの幼虫が見られた。

シロウマオウギのほとんどは花が咲いていて、小さな葉上より幼虫を見つけた。幼虫がいたのは多数株の内の3株で、各々、終令が2、2、1計5頭であった。

タイツリオウギは、まだ花が咲いていなくて、頂部の花芽付近より、幼虫を見つけた。幼虫がいたのは、数株の内の3株で、各々3令、終令が、3、3、2計8頭であった。

大海川には、ひざ丈のナンテンハギ、ひざ丈より腰丈のエビラフジがほぼ同数見られた。ナンテンハギ、エビラフジ共に花は咲いていなくて、初令より終令までの多くの幼虫が付いていた。

ナンテンハギにより多くの幼虫が付いているように思われた。
 多い時には、ナンテンハギの1芽に、4~5頭の若令幼虫が見られた。この時は、まだ若令が多く終令幼虫は、3頭しか見られなかった。この頃例年では、早い成虫が翔んでいるのに1981年は大昔の如く、谷筋のアサマシジミは発生がかかり遅れていると思われる。

1981年4月・ギフチョウの採集記録

嵯峨井海部

松井正人・松田俊郎氏の食草や成虫の情報を元に、石川郡・能美郡・小松市の山間部を調査する機会を得た。これらのうちギフチョウの確認できたものだけを記録しておきたい。

能美郡辰ノ口町和気	1981-4-12	2♂♂採 (ヒカ有)
" " 湯屋	"	4♂♂採 (")
" " "	1981-4-14	7♂♂2♀♀採
" " 徳山	"	2♂♂採 (ヒカ有)
小松市鶴川	"	2♂♂採 (")
能美郡辰ノ口町寺島	"	1♂1♀採
" " 仏大寺	"	2♂♂採 (ヒカ有)
" " 鍋谷	"	2♂♂採 (")
" " 金剛寺	"	数頭目撃
" " 放牧場	"	"
" " 大口	1981-4-18	2♂♂(採)採集確認 (ヒカ有)
" " 坪野	"	2♂♂(") " (")
" " 金剛寺	"	2♂♂(") "

この他、筆者の知る限りでは、鶴来町・尾口村などの記録が新たに発見されているが、早急に発表されることを期待したい。

1981年5月・ウスバシロチョウ採集例

嵯峨井海部

本年(1981)5月、若干のウスバシロを採集したので記録しておく。

石川郡吉野谷村吉野	1981-5-31	2♂♂採集
" " 木滑	"	2♂♂ "
" " 中宮	"	2♂♂ "
" " 市原	"	2♂♂1♀ "

石川県で最初にフジミドリの採卵をしたのは、カミキリ屋に変態する前の井村正行氏だろう。

氏はカミキリに手を出して以来、その幼虫の多くが枯木を食うことにいたく感銘し、それ存らは蝶もと、枯葉によるぜつ飼育という画期的試みを行ない、何百という幼虫を犠牲にさせている。が、医王山でフジ採卵をしていた頃は真面目に生餌による飼育をしたらしく、半日に1つとか2つとかしか採れなかったという貴重なフジの卵は、ちゃんと成虫になって氏の標本箱に収まっている。

石川県のフジが珍品の庭から落ちたのは1978年の秋で、これまたカミキリ屋の入場登氏による発見を機に、白山駅地道に於て、4人×2時間の採卵で90卵ものフジが採集されてしまった。このことは粗№2の井村氏の報告に詳しい。

この日、存也か仲間に入れてもらえず、医王山なんぞをゴソゴソ這い回っていた僕は、その夜多数のフジ卵を見せつけられて、よし僕もと思ったのであるが、その数日後に来た積雪は、駅地道への道を翌春まで閉ざしてしまった。これが致命的な逸材であったことは後に明らかにするのだが、その時僕は、ピカピカのフジを標本箱にズラッと並べるのが一年遅れてしまったと、簡単に考えていた。

翌秋、1979年11月11日、落葉を待ちかねるようにして前年の経験者の一人、松本和馬氏と共に駅地道へ。飼育が大変だから50卵位でやめようなどと考えていたのに、結果は2人で約4時間のたうち回って、たった7卵の泣きの涙。そこで次の様に考え直した。

フジもヤクシマミドリでいわれている様は隔年大発生をするにちがいない。去年が豊作、今年が不作、だから来年こそは……。

1980年10月26日、どしゃ降りの雨の中を鋸を握りしめた諸道秀人氏、剪定バサミをポケットにした松田俊郎氏と共に出発。途中から雪にかわった駅地道をあっちゃんこっちゃん数時間あえいで、何と諸道氏の1卵のみ。又もや涙。執拗にも、採卵者の技術が原因ではないことを確認する為、11月23日には、フジには絶対の自信を掛つ井村氏と再度アタック。今度は天候に恵まれたにもかかわらずの卵。

遂に結論。今年も不作、大不作。

最近、ツニーソーのバックナンバーを読んでいて、白山でフジが多産した年は、奥多摩方面でも大豊作であったことを知った。

更に、'80・秋～'81・春のシーズンは、あっちゃんも大不作だったらしい。とすると全国規模での豊・不作があるとしたか考えられない。

だとしたらそれを決定する要因も、採集者の乱獲などという生ぬ

るいものではなく、日本全国に影響を及ぼす様な大がかりなもの
なければならぬ。それが何であるか非常に興味あるが、今より切
実な問題は今秋の釈迦道である。

涙のフジ卯は、今年も続くのだろうか？

宝達山頂にてツマグロヒョウモン雌を自撃

嵯峨井海部

石川県でのツマグロヒョウモンについての情報をあまり耳にしな
いが、1981年夏、宝達山頂付近にて本種を自撃したので記録してお
く。当日は、さわやかな陽ざしの下、墓参の折、息子を連れてクワ
ガタムシ採集の際に見かけたもので、山頂と宝達無線中継所間の笹
の葉上に静止中のものを自撃した。わりあい新鮮な個体であつた
が、残念ながら愛車を駐車場付近に捨て、徒歩にたよつたため、
息子の手を引くわずらわしさからネットを持参しなかつたため、採
集できなかつたことが悔まれる。

なお古い記録であるが、筆者の弟が同じく宝達山頂にて本種を採
集したことがあるのでその時のデータもあわせて報告しておく。
この標本は筆者が保管している。

羽咋郡押木町宝達山頂 1981-8-15 1♀自撃 嵯峨井海部

〃 〃 1963-8-15 1♂採 嵯峨井均

関野鼻付近・中秋の蝶

嵯峨井海部

1981年9月20日、所用で家族共々、鳳至郡門前町へ行く機会を得、
その折、景勝地・関野鼻へ10数年ぶりに立ち寄つた。その際見かけた
蝶を記録しておく。(※EPは新鮮)

*アゲム多数・*キアゲム多数・クロアゲム・*モンキアゲム多数
*キチョウ・モンキチョウ・クロヒカゲ・*ウラナミシジミ多数
ヤマトシジミ1♂・バニシジミ・ウラギンシジミ2♂♂
キタテハ2exs.

駐車場周辺の樹相は、低標高にもかかわらず、カンワ・ユナラ・
ミズナラ・ハンノキ・エノキ等おもしろいものが多い。好期に調査
すれば以外な種を見出すのではないか？

《例会の記録》

81.10.9. PM 7:00~9:00. 崎浦公民館にて10月例会を開催した。出席者は、若下泰子・松井正人・野中勝・松田俊郎・金子久・竹谷宏二・嵯峨井の7氏。井沢氏は木曾特産の森へ出張？ 金平吉村氏は学業の研究が忙しく、井村氏は原因不明で欠席された。

会員の異動。久しく作成していないという事で、会員名簿作成の趣のアンケートをとった。

かねてから予定されていた、竹谷氏撮影のスライドの映写が行われた。明日10日のヒサマツ採卵会の話が出た。

松田氏よりのヒサマツ調査報告があった。

竹谷氏より竹前町猿山付近の自然道周辺で5月中旬にウスバシロチョウを自撃した話があった。嵯峨井に続いて井村氏がCatocalaに狂い始めた話があった。

嵯峨井が「粗」の編集をほったらかしてにれ金沢井かな？) 毎週週末、白山町頼岡をいっかいしている馬鹿な話があった。

おぼろ etc.

《おぼろ・たおろく 会員の動き (おぼろ)》

◆ 5月17日(日). 松井・嵯峨井 オオヒカゲゴエは、16日に続いて辰川・小松周辺をオオヒカゲ・オオヒカゲと走りまわった。が、途中で雨が降り出し、やむを得ず中止した。

◆ 5月23日(土). 松井仕事人、単独で再び、北方面へ、オオヒカゲだろー。

◆ 5月24日(日). 松井・嵯峨井 オオヒカゲゴエは、午前中雨をみて湯涌草屋、板尾のズを目標に調査したが、おずかの食糧のみでオオヒカゲは見つからず。

◆ 5月25日(月). 吉村氏、立山系名川へ、たおろく残雪のみだろーとか。

◆ 5月30日(土). 松井氏、単身中宮巡へ。

何をいに行ったか知らんが、多分アサマの調査だろー。

同日、吉村氏、早月川へアサマ採卵を目標に出かけたが、残雪がすく、一面銀世界。

今年はず定が、未定で決定できないそう。井村氏の笠川氏や関西ナンバーの自家用車が数台駐車していたそうです。ゴールドメタリックの石川ナンバーも？

◆ 5月31日(日). 松田・バンコルの2人は、前日、松井氏から中宮へ行ったとも知らず、中宮温泉へ。徒歩にたより、何にもおぼろ。

同日、松井仕事人は、ひたすら立山系名川へ、アサマの調査に/行った。そして牛首方面の斜面でとうとうウスバシロチョウを発見し長。オオヒカゲ。

同日、金子先生、異部へ。

◆ 6月5日(金). バンコルは、南見より東宮へ、亀山充氏と常頼寺川へ、幼虫工場のトロコは各所で寸断され、鬼ヶ城付近までやっと、木谷までは行動可能でひき返した。

帰途、川橋下流で、ミヤマシジミ幼虫を、とって立ち寄り、おぼろに成虫がチロチロ、30程度採集して帰った。

◆ 同日、吉村氏竹前町へクロコムシキを採りに、例の採卵場所は、柳が、バツサリとやられたので、キャンセル。

◆ 6月7日(日). オオヒカゲゴエは、今年のオオヒカゲ調査に終止符を打ち、アサマ調査に転向した。今日は富山県片貝川へ、ウスバシロチョウは発見できたが、アサマ発見までには至らなかった。途中、松田氏と吉村松田氏はエニシト林へヒメシジミ1頭を採卵 → 後日、メダク一匹のハエが羽化。

◆ 同日、金子先生は、早月川へ、目標はアサマか？

◆ 6月12日~14日、松井仕掛人は、岩間・中宮
中川辺りへ。スパー林道、野中POINTにてア
サマツク採幼。

◆ 6月14日(日)、午後、松井氏のあとへ、野中、
吉村コンビは試と谷へ入り、アサマツク^{◎◎}
採幼。

◆ 6月20日(土)~21(日)、野中、井村がキリエ七
は、福島県湯花へクリストコトラカミ判を
目標にして出かけ、おぼろの成果をおさめた。
他に、ウソバシ・ミスジ・ギイモツシと採幼を
得た由。

◆ 6月21日(日)、吉村貴氏、金平氏の情報
を元に福島県丹生郡清木町上天下へ！
ウラミアカハくさる程いるはずだったが、ハ
ズレ、ヒオドン・メスジゴホ・クモカマなども得て
帰った。

◆ 同日、松田氏は、白山駅地道へ、アサマ
を目標にしたが、ホッ。入場氏に出逢おみ
たい？

◆ 同日、松井・嵯峨井は、アサマとイオウギ
を求め、岐阜県大野郡白川村(白山の裏側)
へ。藪谷へ進入し、ズナテンハギを発見。
カモシカの死木の浮いた沢があり、臭くて、
2人共、しかめ面。ミヤマハザオが臭くあり、
ひよとするとひよとすると、甲なし。
イオウギの方もホッした。

◆ 6月28日(日)、松井・嵯峨井アサマ採
索コンビは、前回(5月31日)発見のイオウ
ギを目的に富山県立山郡名へ雨申/行進
した。継ぎザオを持参したにもかかわらず、
アサマの採幼はできなかった。

沢を下る時期を失ったばかりに藪田
におまわれ、足元がツルツルすべりだし、命
からがり下山、危く遭難するところだった。

◆ 同日、吉村氏、個の医王山吉村ポイ
ント(富山県側)にてアサマツク60個を空中
戦にて採集。すべりかきかただったという。

◆ 6月30日(火)、松田氏、アサマツクを自
標に瀨波谷へ。ミスハオナガ、ダイセン

ツクミ、ウラコツク、ウツザツクなどの成
虫を得てきた。

◆ 7月4日(土)~7月5日(日)にかけて、松
井氏、単独で雨飾山、乙見峠、大滝川
へ。各地でアサマの幼虫をガツポリと
たらい。雨飾ではタイツリ、イ、ソウマ
のいずれのオウギにもアサマツクミが見られ
た由。詳細は、本号に掲載済み。

◆ 7月5日(日)、吉村、井沢、嵯峨井の新型
トナは、富山県早川へ。全てのアサマポイ
ントは、すでに誰かの清掃後だホッ。イ
ワオウギはホキホキだらけ。それに、2.30
程度のアサマツクミを採幼して、帰沢。
早川では、元会員の笹川氏の発見だ。

◆ 同日、松田氏は、早月組に合流でき
なめたため、単独に医王山吉村ポイント
へ。おぼろのアサマツクミだらけ。

◆ 〇月×日、講談社の藤岡大先生作
の日本産蝶類大図鑑の改訂版が発
行された。少くも植栽の強さ図鑑であるが
見たい人は、新刊版は井村正行氏などに、
改訂版は、野中勝氏宅に保存されて
いるから見に行くとよい。

改訂版の方には、嵯峨井提供の立山
新名産のアサマツクミ(あえて謹呈・誤解
のないよう)や出どころ不明の立山産のアサマ
ツクミが載った。ム！ム！ム！おの大先生
の御専門はレーザー工学であるが、まだ
情報網を捕まえています。

◆ 7月12日(日)、嵯峨井は、富山県昆虫同
好会の大野豊氏と久々に行動を共にし、立
山新名より大岳登山道へ入り、途中のガレ
場より名もない小さな沢を2本ばかり登り
つめたが、残念ながら、イオウギは見つ
からなかった。せいか、ここまで登ったのだ
からと、大平迄足をのび、ミヤマエノキの幼
虫を調べてみたが、視界に残雪が多く、

加マノキの伸長が例年と比べて非常に遅いようである。7月でこの状態だから、果して今年発生するのかな。

◆7月14日(火) 嵯峨井の勤務先へ、藤岡知夫大先生より、ひよこり、電話が入った。白山岩間のアサマジミは、福井おののち情報であるとか? ----- 今度の日曜日(15日)に白山岩間へ行きたい。イワオウギを食する白山産のアサマを採りたい。是非案内を!と頼まれた。ホク知一がい。

◆7月15日、18日、25日、30日、その他、野中、金子、カトカラ、コエは、シヨシヨと医王山巡りへ。はつきり2人で/行っているのか、別々だったのかは、筆者にはわからない。この頃、カトカラをとりたいたな。どこへ行けばいいのかなと悩んでいた者がいる(?)のをしりめに。

—この時期、筆者のところに3人(4人)の会員の動きの情報を耳にしているないので、書かない。—

◆8月1日(土)、松田先生、御所、高野原へ。何を採ったか、よく聞いていない。

◆8月7日~11日、松井仕掛人、有給をとって、積高連峰を縦走。最近登山に心がけ、今後の準備をしているようだ。ネットは、持参しなかったと聞くが、果して何を採ったのかな。帰り道、立山称名へより、再び、ひよこアサマを調査。ボツ? しかレクモマバ=ヒカゲの低標高のデータが出た。

◆嵯峨井は、子連れで釈迦道へ。(8/11) ヒメオウツクガタ、アサマシクワガタを採り、帰ったが、子連れで釈迦道は、ちと恐い。

◆0日、石川県自然保護課より、『石川の動植物』の発行があった。欲しい人は、県自然保護課へ行くと知られる。ひよこアサマ(?)がいて、どこに誰が、何のために必要なのかとか聞かれるが、決して昆虫をやっているとか、おしの会の者とはいつ

ては聞かない。理由は?? 想像にまかせる。
◆8月8日~8月21日にかけて、松田氏は、兵庫県加藤川市(愛事の炭鉱へ)夏休み旅行。学校の先生という職業は、こんな時うらやましい。久崎断で10印。鳥取県大山で10印のメスアカミドリを採卵してきた。すく気が早いはず。

◆8月15日(土) 嵯峨井は、2のところに、ボース(子オ)を連れてクワガタ採集に余念がない。暮暑の際、室産山頂上付近で、久々にツグロヒヨウモンを目撃した。

◆8月23日(日)、松田・嵯峨井は、早くと医王山へ採卵に行った。重山道路のサリより12印のメスアカミドリが採られた。しかし保管が大変。

◆8月27日(木)、松田氏、鳥取の杖川へ道路欠陥のため進めず、豪雪の後遺傷がまだ続いている。

◆8月28日(金) 野中、松井、嵯峨井の深夜隊は、医王山重山分岐にて灯火採集を行った。カトカラを初めてとった嵯峨井は、ホクホク、他の2人はオモシロク。

◆8月29日(土)、野中、金子、松井、嵯峨井の4人組は、白山釈迦道にて、夜間採集を試みる。A-POINTには、先客(山頼・徳本・高羽・富沢の4氏)がいて、心の中で燃えたか、軍配は高年令側(失礼)にあがり、若年令側には、曇色がしぼれた。ヨコヤマヒゲナガがめ。しかし、嵯峨井1人は、夜間採集に酔いビルに酔い、Catocala採集のおもしろさをバツで知った。

◆8月30日(日)、松井氏兄弟、再び釈迦道へ。おぼろにねばホカイが、ヨコヤマヒゲを手にした。Catocalaが多数飛来したが、オオシロババはとらなかつたらしい。

◆9月2日(木)、井上氏、女子誕生。女の子で、若(おかね)と命名される。秋に

- 生れたことにより、アキアカネにちかんでつけられた。可愛らしく育って下さい。
- 9月5日(土)、野中・井村のカミキリゴエは、取道にて夜間採集。蜘蛛の大軍を採集す。
- ◆9月6日(日)、井村氏、富山の常願寺川へ。ミヤマジミを少々採集す。
- ◆9月15日(火)、嵯峨井・松田の2人、富山の細入村へヒサマツ採集。2人で300羽の程獲。時期が早く、ヒサマツのメス5〜6頭を目撃。内2頭を採集す。成虫採集記録本に載っていないのではないか。
- ◆9月18日(金)、金子・嵯峨井は、各々別行動で、市瀬へ蜘蛛の採集に。
- ハニシバ・エシバニシバ・ミシバ等。
- ◆9月19日(土)、野中・嵯峨井は、白山市へ。ムササビ、ツナシバ、ハニシバなどのシバが少々。
- ◆9月20日(日)、嵯峨井は単独で、白山

- 市瀬へ。ムササビ、ツナシバ、ハニシバ等。
- ◆9月22日(火)、金子、野中、嵯峨井、米田道へ夜間灯火採集に。
- ◆9月23日(水)金子氏、市瀬へ。9月24日(木)野中氏、市瀬へ。同日、松田氏、山中、片后、我方面へヒサマツ調査に行く。
- ◆9月25日(金)、山嵯峨井、市瀬へ。
(嵯峨井記)

《編集後記》

金子氏の御厚意により、天野勝広氏の輪島のウスバシロチョウと題した特別寄稿が本会に寄せられた。天野氏は、輪島市在住で教員にお務めと聞いている。また、日本鱗翅学会の一員でもある。天野氏の今後の能登方面における御活躍をお祈りするときに本会に寄せられた御厚意に感謝したい。

目次

特別寄稿・輪島のウスバシロチョウ	天野勝広	1
三小川にイエローバンド産す	金子ニク	2
島越城址のオオムラサキ	松田俊郎	2
採集メモ・蜘蛛谷のツマジロウラジャノメ	金平永二	3
1981年・南砺山アサマシジミ	松井正人	3
1981年・ギフチョウの採集記録	嵯峨井淳郎	4
1981年5月・ウスバシロチョウ採集例	嵯峨井淳郎	4
ゼフおた話・(1)涙のフジミドリ印	野中 勝	5
宝達山頂にてツマグロヒョウモン雌を目撃	嵯峨井淳郎	6
関野鼻付近・中秋の蝶	嵯峨井淳郎	6
例会の記録・会員の動き・しばの動き		7

翔

№ 23

1981年 10月 15日(木)

発行：金沢市三ツ新町4-9-34・松井正人方
百万石蝶談会
編集・校正：嵯峨井 淳郎